

## 記事内容

- ☆平和行動in広島、in長崎
- ☆ネット21「尾瀬の自然に学ぶ、親子夏休み体験プラン2012」「山の学校 in ときがわ」
- ☆民主党青年部との意見交換 / メンタルヘルスマン月間 / 9月の行動日程
- ☆あけぼのビル



# 2012 平和行動 in 広島・in 長崎



「願う平和から叶える平和へ」をスローガンに、6月の沖縄からスタートした今年の平和行動は、広島行動を8/4～6（17名参加）、長崎行動を8/7～9（12名参加）の日程にて開催されました。参加者の多くが初参加ということもあり、原爆による被害、戦争の悲惨さを直接肌で、「平和の大切さ」「我々は何をすべきか」を感じ取ることができたと思います。

また今年の「平和の折り鶴」は、産別・地協みなさんの協力により、集約数が3万羽を超えました。これにより、広島・長崎の両平和行動参加者全員による、「1人1束の折り鶴献納」を初めて果たすことができました。来年以降も参加者全員での折り鶴献納が実施できるよう、ご協力をお願いいたします。

## 日程

## in 広島

## 参加者

- 1日目(8/4)** ■「核兵器廃絶2012平和ヒロシマ大会」  
時間 16:45～18:45  
会場 広島県立総合体育館
- 2日目(8/5)** ■「ピースセミナー」【第1会場】  
時間 9:30～11:30  
会場 メルパルク広島「平城の間」  
テーマ 「平和の語り部・被爆体験の証言」  
■「ピースセミナー」【第2会場】  
時間 10:00～12:30  
会場 放射線影響研究所  
テーマ 「知っておきたい放射線と健康の科学」  
■「ピースウォーク」  
時間 14:40～  
会場 慰霊碑めぐり(原爆ドーム・平和公園モニュメント)
- 3日目(8/6)** ■「原爆死没者慰霊式・平和祈念式典」(広島市主催)  
時間 8:00～  
会場 広島市平和記念公園 原爆慰霊碑前

- 加藤 武男 (JAM埼玉・前澤工業労働組合)  
川又 眞 (情報労連・新和ユニオン)  
関根 雅博 (情報労連・新和ユニオン)  
杉田 健一 (運輸労連・武蔵貨物自動車労働組合)  
小松崎敏孝 (運輸労連・西武運輸労働組合武蔵野支部)  
萩原 賢征 (川越・西入間地域協議会・バイオニア労働組合川越支部)  
小谷野秀顕 (比企地域協議会・東松山市職員労働組合)  
小谷野美知子/小谷野喬貴/小谷野美紅(家族)  
山室 明治 (西部第四地域協議会・ソーシン労働組合)  
松原 尊啓 (朝霞・東入間地域協議会・東京電力労働組合埼玉総支部志木支部)  
満永 崇臣 (東部地域協議会・東京電力労働組合埼玉総支部春日部支部)  
太田 雅仁 (北埼玉地域協議会・日本精工労働組合埼玉支部)  
甘浦 大 (連合埼玉青年委員会・全日通労働組合埼玉支部)  
吉田恵美子 (連合埼玉女性委員会・国公総連埼玉全農林関東)  
鶴谷 一仁 (連合埼玉副事務局長)



加藤武男

終戦から67年目を迎えての8月6日、私は初めて広島の地に来ることができました。平和集会、被爆体験談、ピースウォークなど、貴重な体験をすることができ、当日も多くの人が参加していましたが、原爆と原発と一緒に考えてしまっている人達がいるのを見ると残念に思いました。同じ核でも意味合いが違うこと、やはり8月6日は原爆で犠牲になった方々を慰霊する日、平和を祈念する日だということを考えてほしいと思いました。



川又眞

8月4日に広島を訪れるきっかけとなったのは、昨年3月の福島第一原発事故が心に強く残っていたからです。平和行動に参加した大勢の人が原爆ドームを見て衝撃が走る事でしょう。僕は資料館のグローブの前で立ち止まり、この小さなグローブを見て少年が宝物のように丁寧に使い、将来、野球選手を夢見ていたのではと思ひ涙がこぼれ落ちました。この地球に戦争と核兵器が一日でも早くも早くなるように心から願います。



平和ヒロシマ大会



関根雅博

広島に原爆が投下され、67年が経ちました。この年数だけ聞くと随分昔のことのように思えますが、この平和行動に参加しているうちに最近の出来事のように感じてきました。平和を訴える多くの人々の気持ちが一つになり、風化をさせてはならないという強い思いを感じたからだと思います。今後の世界が同じ過ちを繰り返さないために、この事実を風化させないために、努力していきたいと思います。



杉田健一

1945年8月6日原爆が投下され30万人以上被爆し14万人の命を奪った悲劇を後世に伝え続けなければなりません。しかし、被爆者の方々の高齢化が進み、体験者が減少してきている。これからもっと若い人にこの平和行動に参加して広島に来て原爆ドームの折れた鉄骨や壁、地面の瓦礫、資料館など写真やテレビでは伝わらない生々しさを見て実際に戦争があり、原爆が投下されたことを伝えて行ってほしいと強く感じました。

小松崎敏孝

1945年8月6日から67年前の広島での出来事は何の罪もなく平凡に暮らしていた人々が一発の原子爆弾の投下によって一瞬に14万人の尊い命を奪う惨劇が起こったのです。未だに世界では1万9千発を超える核兵器が存在しています。世界で唯一被爆国の日本からこの様な惨劇を繰り返さないためにも日本政府は広島・長崎を中心に、我々も核の恐ろしさを世界にアピールし「世界平和」が恒久的に続く事を平和行動に参加し強く感じました。



ピースセミナー



萩原賢征

広島には過去何度か訪れたが、今回は自分の中で違った。これまで原爆ドーム公園・資料館を見て回ったが、平和への強い意識はそれほど強い。目・耳に入る光景や情報だけでなく、その裏、また奥にある、平和や命を奪われた多くの人々が頭に浮かび、平和の尊さを強く感じたのが今回の平和行動だった。67年経った今でも原爆被害は続く。核兵器のもごさや戦争の悲惨さを忘れずに、今後の活動につなげていきたい。

小谷野秀顕

家族連れで参加した今回の平和行動。いろいろなイベントに参加し、戦争の悲惨さ、原子力エネルギーの脅威と正しい使い方、被ばくした方々のつらさや悲しみなど、それとなく肌身で学んでくれたことだと思います。また、普段なかなか一緒することのない他単組の皆さんと交流できたのは貴重な体験でした。子どもたちにとっても、私にとっても実りある3日間でした。

山室明治

67年前に広島に原爆が投下され、一瞬にして何の罪もない14万人の尊い命が奪われました。また長い年月、被爆者は放射能障害に苦しめられてきました。世界で唯一被爆国である私たちは二度と過ちを繰り返さない様、原爆の恐ろしさを後世に伝えていかなければいけないと思います。改めて核兵器の残酷さ、悲惨さに強い衝撃を受けました。私たちの身近で起きている原発問題にも、目を向け自分の出来る事から行動に移していく必要があります。



原爆ドーム

松原尊啓

広島の上で被爆された方や、広島に原爆が落とされたと言うことを知らず広島市内に親を探しに来られた方が、熱線や爆風、そして放射線の影響により被爆していく状況や、被爆後遺症に悩まされ死の淵に何度も立たされた事等、貴重な体験談を聞くことができました。このような事を二度と起こさないために、一人一人が原爆・戦争の悲惨さを理解し、核のない世界を目指していくことが必要だと再認識いたしました。

満永崇臣

平和と感じている現在の日本の姿は、今なお原子爆弾の被害に遭われた方はもちろんのこと、戦争で犠牲になった方々のうえに成り立っていると改めて感じました。実際に被爆された方のお話を聞き、原爆、戦争の悲惨さを感じることができ、改めて、現在の当たり前な平和が続いて欲しいと思った2泊3日でした。

太田雅仁

ピースセミナーでは、被爆体験者の坪井直さんよりお話を聞きました。坪井さんは20歳で被爆し、約40日間意識不明になるほど重傷だったということです。その中、他の人を助けたくても助けられなかった辛い思いが今でも心を苦しめていると聞き、精神的にも辛い思いをしていることがわかりました。平和公園での見学も含め、実際に見て聞いたことで、より戦争の悲惨さがわかり、「あらためて戦争は絶対に起こしてはいけない」と感じました。

～男女平等参画トップ宣言～

男女が対等なパートナーとして、互いに協力し、家族としての役割を果たしながら、仕事や学習、活動に貢献するために、固定的な役割意識にとらわれない、男女共同参画社会の実現に向けた活動に取り組みます。

埼玉県電力総連 会長 依田 修

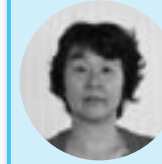


甘浦大

予告なく、いきなり落とされた1つの爆弾で、一瞬にして14万人余りの人間を、焼き、溶かし、消した。事実と放射線を浴びた町、広島での過去の現実。現在、昼間は大都市で、木々や緑も豊富で活気に満ちている。昔、焼け野原となり、放射線被害で復興が難しいと言われた町とは思えない。でも夜中は車の数も少なく、とても静かで、少し暗い淡いネオンと信号の光のみの町、穏やかな流れの川と橋が印象的な町。67年前に起きた事実が、少しだけ面影のように残る。橋、川、電車、原爆ドームを見て寂しい気持ちで胸が一杯になりました。



原爆犠牲国民学校教師と子どもの碑



吉田恵美子

初日に、私たちの折った折り鶴を献納。こういう風に、毎年納めていたのだなあ、最初の感動です。中日は被爆体験者の方からのお話を伺い、体験者の方の苦しみの年月を肌で感じ、放射線影響研究所の一般公開では、この研究所の長年の研究が福島への被爆研究に役に立つと良いがと思いました。3日間で「戦争はあってはならないもの」ということを世界中の人が考えなくてはならないと、改めて思いました。最後に、今回の参加で多くの職域の方と知り合えたことは一番の財産となりました。

日程

in 長崎

参加者

1日目(8/7)

■「核兵器廃絶2012平和ナガサキ大会」

時間 14:00~17:45  
会場 長崎県立総合体育館

2日目(8/8)

■「ピースウォーク」

時間 9:30~11:30  
会場 長崎平和公園・原爆落下中心地公園

■「平和シンポジウムin長崎」

時間 14:00~16:00  
会場 原爆資料館大ホール  
内容 テーマ 「2015NPTに向けた取り組み」  
【第一部】基調講演  
講師：黒澤満大阪女子大教授  
【第二部】パネルディスカッション

3日目(8/9)

■「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」(長崎市主催)

時間 10:30~11:45  
会場 平和公園

- 濱田 浩 (JAM埼玉・日本ピストンリング労働組合)  
新山 竜也 (情報労連・JCN Kanto Union)  
外 茂史 (情報労連・JCN Kanto Union)  
根岸 久雄 (川口・戸田・蕨地域協議会・NTT労働組合北関東総支部川口分会)  
樋口 博 (県央地域協議会・UDトラック労働組合)  
新井 晃一 (熊谷・深谷・寄居地域協議会・秩父鉄道労働組合)  
後閑 通全 (本庄・児玉郡地域協議会・沖電気工業労働組合北関東オフィス)  
兼山 雅之 (秩父地域協議会・昭和電工ユニオン秩父支部)  
田村 昌利 (西部第四地域協議会・本田技研労働組合埼玉支部)  
小岩 睦 (連合埼玉青年委員会・JAM埼玉)  
吉川 和美 (連合埼玉女性委員会・日本ピストンリング労働組合)  
増田 貴也 (連合埼玉副事務局長)



濱田浩

長崎は今日も暑かった。ペットボトルの水をいくら飲んでも汗が吹き出て止まらない。『のどが渇いてたまりませんでした。水にはあぶらのようなものが一面に浮いていました。どうしても水が欲しくて、どうとうあぶらの浮いたまま飲みました』当時9歳の女の子が記した平和の泉の碑文です。水を求めて息絶えた方々に思いを馳せると心が苦しくなる。忘れてはいけないこと!繰り返してはならないこと!を改めて実感した。



平和ナガサキ集会



折り鶴献納



～男女平等参画トップ宣言～

懸命に働く女性は美しく、それをサポートする意識を持つ男性はとてものもしいと思います。情報労連は、男女が共に支えあう、活き活き職場づくりに取り組んでいます。

情報労連埼玉県協議会 議長 中沢 範夫



新山 竜也

平和行動に参加し、改めて当時の原爆投下の状況や被爆について知り、大変ショックを受けたのと同時に、自分自身改めて平和への願いを一層強く持つ事が出来ました。戦争を知らない私達が出来た事は、このような平和行動に参加した経験をもとに、我々が住む日本で過去に起きてしまった忌まわしい戦争や原爆の恐ろしさについて、ありのままを次の世代の人たちに語り継ぐことが平和への一歩であることを強く感じました。



国際子ども平和壁画展



外茂 史

この度2012連合平和行動in長崎にて、たくさんのイベント・式典に参加させていただきました。今の日本で戦争を経験した人たちは数少なくなってしまうことが、消すことの出来ない戦争という過去の現実と、平和への思いはしっかりと受け継がれていることを実感し、私自身もこの思いを未来へ伝えていくのだと深く思いました。



根岸 久雄

「ナガサキ」の平和式典は誰でも知っています。しかし、被爆地以外の地域では「ヒロシマ」と共に既に形骸化していることも事実です。実際にその地に立ち、その瞬間を体験する事が大切な事と考えています。「ナガサキ」を身近に感じ、資料館の展示資料等を真剣に見て恐怖を感じました。働く仲間たちと、その「事件」を体験できたことは大変に有意義だと考えます。来年も、その次も仲間を派遣し、この体験を継続する事が重要です。



樋口 博

実際に原爆が投下された長崎の地に立ち感じたことは毎年8月9日に大きな悲しみを思い出す中でも、被爆地長崎として未来の子ども達のためにこの惨劇を心に刻み非核に対して訴えかけていく力強さを感じ取ることができた。そのような中で我々もこの活動に参加していくことで、共に理解し風化させることなく、様々な場面で伝えていくことの必要性を改めて感じる事ができた。



新井 晃一

今回の平和行動に参加して、核兵器廃絶ナガサキ大会や平和シンポジウムが3団体共催で取り組まれていることは良いことだと感じました。それぞれ温度差のある団体が、平和のために方向性をひとつにするのは大切だと思います。



「長崎の鐘」の前で説明を受ける



後閑 通全

戦後生まれの私たちは何不自由なく当たり前のように暮らしている中、今もなお被爆に苦しむ多くの方々がいる。被爆者の声、高校生平和大使の決意、当時の写真や資料などを通じ、67年前に起きた悲惨な戦争、恐ろしい原爆を二度と起こさぬよう、戦争を知らない私たちが平和な社会を作るために、しっかりと後世に語り継いでいかなければならないと改めて実感しました。



兼山 雅之

原爆投下から今年で67年目を迎える長崎での平和行動に参加し、被爆者の証言、原爆資料館での数々の資料から、改めて原爆がもたらした被害の凄まじさを感じさせられた。日本は広島・長崎と立て続けに2回もの原爆投下を受けた唯一の被爆国である。このような惨劇を二度と繰り返さないためにも我々、日本国民から世界に核兵器の恐ろしさ、人の命の尊さを訴え続けていくべきだと実感させられた。



田村 昌利

原子爆弾が長崎に投下され今年で67年が経ち、戦争のもたらす悲惨な結果を肌で感じる事が出来たように思います。今でも苦しんでいる全ての被爆者とその家族たちに少しでも早く保障や支援が行われることを強く願います。そして、二度とこの苦しみや悲しみを繰り返さない為にも、核兵器廃絶の実現に向けた取り組みを粘り強く進めていく必要があると感じました。



小岩 陸

原爆投下に関しては私も知っているが、やはり現地ではしか伝わって来ないものがある。今の長崎の町並みに当時の面影はない。原爆の日を訪れる人たちに感謝をもって接していることや資料館で係員でない方が知人に展示物を詳しく説明する姿の印象がそう感じさせたのではないだろうか。平和運動が広く多くの市民に根付いていることが実感できたことも含め有意義な集会であった。



吉川 和美

3日間に亘る平和行動において一番衝撃を受けたのは、被爆により亡くなられた方の写真や、皮膚が爛れ、治療している方々の写真を見たときでした。また、猛暑の中、ピースウォークで2時間程度歩いただけでも、体力消耗が激しく辛いと思いましたが、67年前には、原爆を投下され、その中で、必死に生き抜いてきた方々がいることを思うと、戦争と平和について、色々と考えさせられました。



～男女平等参画トップ宣言～

我々フード連合では、組合意志決定機関への女性の参画を拡大することを目的とした「ポジティブ・アクション20」を更に推奨していきます。性・年齢に関係なく、互いに理解し、関わり、創る社会を目指します。

フード連合埼玉地区協議会 議長 萩元 義則

## ネット21運動 「尾瀬の自然に学ぶ、親子夏休み体験プラン2012」

尾瀬の自然に触れ、自然環境の保護・保全の大切さを学ぶ機会として、7/29～30にて、参加者14名(スタッフ含む)で開催しました。この活動は、毎年この季節に開催し、今年で4回目の開催となります。今年から、大人自然環境学習コース(清掃ボランティア活動含む)も開設し、親子だけでなく夫婦でも自然環境を学ぶ機会を設けました。

埼玉とは気温が10℃も違う天井界に大人たちは癒され、子どもたちは元気よくはしゃいでいました。普段の生活では味わうことのできない、雄大な尾瀬の大自然を満喫し、草花や昆虫に至るまで参加者全員が興味を持って勉強できたと感じています。皆様にも夏のひとつ時は是非、味わっていただきたいと思います。



小笠原ファミリー  
(電力総連:小笠原崇・大悟)



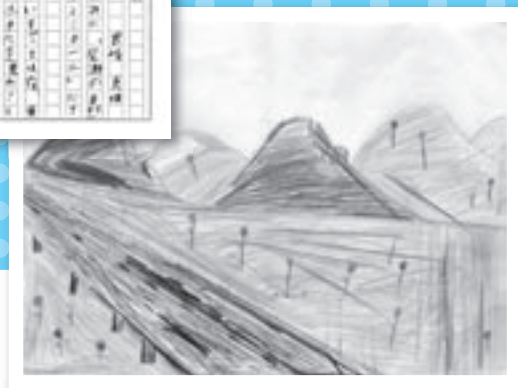
小笠原大悟



宮崎ファミリー(電力総連:宮崎浩・真瑛)



宮崎真瑛



### 尾瀬ハイキングで

30年ぶりの尾瀬は水芭蕉もニッコウキスゲもとうに盛りは過ぎていました。でも「ワタスゲ」や「キンコウカ」「ヒツジグサ」などが目を楽しませてくれ、夜の蛍の乱舞には参加の子どもたちも大喜びでした。二日目は7時の出発、刻々と変わる風景に疲れも忘れ、最後の急な登り坂も全員クリア!昼食のカレーライスには皆一様に「美味しい!!」と。下界の猛暑を忘れさせてもらった夏の二日間でした。

情報労連 神永 隆



#### ～男女平等参画トップ宣言～

我が家は嫁さんと娘2人の4人家庭ですので男女平等どころか女性優遇ですが、働く環境はまだまだ女性の活躍の場が少ないのが現実です。JECでは男女平等という言葉が必要なくなるまで、運動に取り組んでいきます。

JEC連合埼玉地連 議長 井上 聡

## ネット21運動 夏休み親子自然体験2012「山の学校」inときがわ

親子でときがわの自然と文化に接する企画として『夏休み親子自然体験：山の学校』を2009年から開催し、4回目となる今年は、8月11日に開催しました。今年もときがわ町で山里の心と自然を守り継承していく活動を行っている、「NPO法人ときがわ山里文化研究所」の協力を得て開催しています。今年は、スタッフ含め約140名という超拡大版にて実施し、水遊びあり、バーベキューありで参加した親子全員が笑顔での自然体験となりました。今年は初めて流しそうめんにも挑戦し、大成功を収めました。来年以降も、ずっと続けていきたい企画だと考えています。

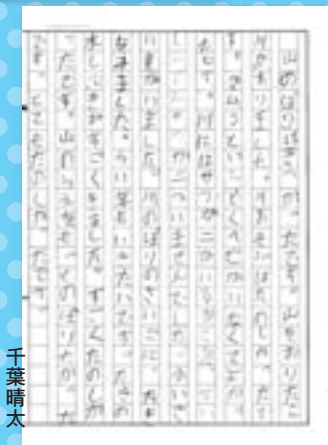
お子さんの夏の思い出に、ご参加お待ちしております。

### 千葉ファミリー

(アドバンテスト労働組合：千葉道郎・陽香莉・晴太)



千葉陽香莉



千葉晴太

### 森田ファミリー

(電機連合：森田行男・潤一・直樹・雅也)



森田潤一



森田直樹



森田直樹(6才)、雅也(4才)、潤一(8才)



流しそうめんもやりました



今年も多くのご家族に参加していただけました!



### ～男女平等参画トップ宣言～

私たちの組織は、交通運輸産業を支える労働力で成り立っています。最近では、ドライバーや教習指導員という専門職にも女性の進出が多くみられます。これからも、男女が働きやすい職場の確立に力を入れてまいります。

埼玉交通運輸労働組合 執行委員長 牧 邦夫

## 青年層からみた民主党政権に望むことは？

～民主党埼玉県連青年局との意見交換会を開催～

7月25日(水)、連合埼玉青年委員会では、青年委員会の活動方針にも掲げている「教育・学習活動の推進」の一つである政治活動に対する理解を深めるために、民主党埼玉県連青年局の議員の皆さんと意見交換会を開催した。



意見交換会の様子

冒頭、民主党埼玉県連青年局の三神尊志議員(さいたま市見沼区)より、日頃の活動のお礼と、「構成組織の四役クラスの役員の方とは話す機会があるが、なかなか青年層の方に直接意見を聴く場がなかったので、是非、地方議会から交流を深め、本音ベースで意見交換をしたい」との挨拶に続き、小林青年委員長からは「組合員に一番近い青年層が感じていることを意見させてもらう」と挨拶が行われた後、意見交換会を行った。

意見交換では、お互いの活動に対する考え方や具体的な活動内容について報告し、議員の方からは「組合活動をしている上で、議員をどう感じているか」、「マニフェストの8割に手をつけているがなかなか伝えきれていない」など、また、青年委員会役員からは「青年層にとって政治は遠い存在」、「政権与党として、将来ビジョンをはっきりして、もっとPRしてほしい」、「政治に無関心ではいられないが、無関係ではいられない」など率直な意見交換を行ない、今後、様々な活動での連携などを確認し終了した。

### 9月は「連合埼玉メンタルヘルスマ月間」です。

9月10日は世界自殺予防デーです。この日にあわせて、労働組合の連合と日本カウンセラー協会が協力して「働く人の電話相談室」と「メンタルヘルス研修会」を開催します。

#### 働く人の電話相談室

2012年9月10日(月)11日(火)12日(水)13日(木)14日(金)  
10:00～22:00

**フリーダイヤル 0120-583358**

(携帯電話からも、かけることができます)

#### 第2回メンタルヘルス研修会

日時 2012年9月19日(水)10:00～17:00

場所 あけほのビル501会議室

内容 「講義とグループワークによる体験学習(基礎編)」

対象 50名(組合役員及び、人事担当者など管理監督者で連合及び外部でのメンタルヘルス研修等未受講の方)

### 現在予定される9月の日程表です

9月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日 土	青年委員会ユースラリー(秩父市青少年野外活動センター・13:30～ 2日・11:00)	
2日 日		埼玉労福協第3回理事会・役員研修会(～3日・岩手県)
3日 月		
4日 火	①第10回四役・執行委員会(あけほのビル) ②さいたま労働金庫事業報告会	
5日 水		第4回地方連合会事務局長会議
6日 木	埼玉シニア連合幹事会(～7日・ネット21熊谷)	関東ブロック「第22回海外交流視察団」渡航説明会(10:30～12:00・連合東京会議室)
7日 金	①平和行動in根室(～10日) ②第2回地協議長・事務局長会議(14:00～・ときわ会館)	
8日 土	①ネット21「NPO-インターンシップ入校式」(10:00～) ②なんでも労働相談ネット21熊谷(10:00～14:00)	電機連合埼玉地協「第52回定期大会・懇親パーティー」(13:00～・17:00～)
9日 日		
10日 月	①政策制度要請書県知事提出(9:30～・埼玉県庁) ②働く人の電話相談室(10日～14日・10:00～22:00)	
11日 火	教育プログラム(10:00～・あけほのビル501)	
12日 水		運輸労連第45回定期大会(10:00～・さいたま市産業文化センター)
13日 木		
14日 金	第22回チャリティーゴルフ大会(おむらさきゴルフ倶楽部)	
15日 土		
16日 日		
17日 月		
18日 火	ネット21「第4回運営委員会」(10:00～・連合埼玉会議室)	
19日 水	第2回メンタルヘルスマ研修会基礎編(10:00～・あけほのビル)	
20日 木	教育プログラム(10:00～・ときわ会館)	
21日 金		
22日 土		
23日 日		関東ブロック「第22回海外交流視察団」(～9/30・インド)
24日 月		埼交連「第25回懇親チャリティーゴルフ大会」(ゴールド栃木プレジデントCC)
25日 火		関東ブロック「政策フォーラム」(14:00～・大宮ソニックシティ国際会議室)
26日 水		東部地域協議会組織代表者会議
27日 木	第3回災害ボランティア救援隊運営委員会(10:00～・連合埼玉会議室)	
28日 金		①電機連合「東日本大震災復興支援第19回チャリティーゴルフ大会」(東松山カントリークラブ) ②JAM北関東第14回定期大会(～29日・ホテル聚楽)
29日 土	埼玉シニア連合第2回ボウリング大会(10:00～・浦和スプリングレーンズ)	
30日 日		



#### ～男女平等参画トップ宣言～

トラック運輸産業にとっては、今後の労働力不足に対応するためにも、女性の進出は重要な課題となっています。多くの女性が進出しやすいような職場環境の整備を早急に進めなければならないと思っています。

運輸労連埼玉県連合会 執行委員長 武井 正人

# あけぼのビル

事務局長 佐藤 道明

## ◇三党合意の意味とは

社会保障・税一体改革関連法案が、8月10日、参議院本会議において賛成多数により可決・成立した。6月26日の衆議院通過以降、政局優先の動きがあったことは遺憾ではあるが、法案の成立により国民の将来の安心につながる改革の第一歩が刻まれたことを評価する。

一方、法案成立に至ったものの残された課題については、社会保障制度改革国民会議や関係審議会で速やかに検討を進め、引き続き与野党で建設的な議論を行い、結論を得る必要がある。

社会保障・税一体改革関連法案の可決・成立において、民主党、自民党、公明党による「三党合意」は大きな意味があったと思う。「ねじれ国会」の状況下においては、与野党が真摯に話し合う中で、一定程度の妥協を繰り返しながら、方向性を見いだす以外に政治を進めることはできない。現状を見れば、政権は民主党により構成されているものの、国会を動かしているのは現実問題として参議院の多数派が動かしている。その参議院の多数派は野党であり、この参議院でブロックされれば、法案は一切動かないわけである。

与野党がギリギリの主張を行いながら、そして法案をまとめて行くためには、一定程度の理念は失わずに、お互いが譲り合いながら、議論を進めていくことは、やむを得ないことであり、あたりまえのことである。「妥協」という言葉には、後ろ向きなイメージを感じるかもしれないが、私たち労働組合ではよく経験することでもある。

例えば、労使交渉では要求実現のために交渉を進めるが、要求を100%実現することは困難である。100%を勝ち取れないからと言って諦めるのではなく、如何に100%に近づけるための交渉を進めて行くのか考える。そのためには、どこかで労使の接点を見いだそうと努力をする。組合員も、その努力の過程をみながら、あるいは組合からの説明で努力の過程を知らせていく中で、組合員とも意思疎通をはかり接点を見いだしていくわけである。このようなことは交渉ごとでは当然の話であり、国会の与野党の間でも当然のことではないだろうか。

与野党協議自体をけしからんと言うことに私は疑問を感じている。三党合意の内容には課題はあるものの、三党合意が成されなければ法案は成立せず、前進できな

い政治どころか、後退と受け止められてもやむを得ない状況であったと思う。900兆円とも言われる借金を抱え、社会保障の財源も行き詰まる日本において、諸外国に対し日本の政治が財政の立て直しの意思があることを知らしめると同時に、何よりも子どもや孫の世代に大きな負の遺産を残さないためにも、三党合意により法案が成立し、政治が進んだことを評価すべきである。

## ◇歩みを止めない

連合は政権交代可能な政治体制の確立を目標に掲げ、二大政党的体制をどうつくっていくかということに腐心してきた。連合と民主党は必ずしも政策が一致することばかりではない。しかし、大局的に物事を捉えたときに、現在ある政党の中では、勤労者・生活者の視点をはじめ、民主党がめざす方向性は連合の政策と近いと言える。長年民主党の支援を続けてきたのは、決して民主党のためではなく、連合の政策実現のためであったことは言うまでもない。そして、2009年8月に政権交代を成し遂げた。

政権交代から3年、国家的危機とも言える状況の下、「政治は、何のために、誰のためにあるのか」という原点を、私たちはもう一度考えなければならない時に来ているのではないだろうか。ただし、民主党ではダメだとか、政権交代をしたのに、何もできていないという議論ではなく、少なくとも私たち労組役員は、政権交代の成果は成果として、そして課題は課題として認識しなければならない。

例えば、小泉構造改革では社会保障費を毎年2200億円削減していくという方針を掲げたが、民主党政権に変わりこの方針を止めたばかりでなく、公共事業費を削減し社会保障費を厚くした。子ども・子育て政策の拡充、高校授業料の無償化などの教育の機会均等の政策は着実に進んでいる。しかし、政権交代に対する期待が大きかっただけに、落胆も大きいという面は否めない。国民の間にはあきらめと不満が渦巻いていることも事実である。ただ、私たちは、憲政史上初めての政権交代を成し遂げた中で、ようやく新しい社会を構築していくための入口に立ったにすぎない。政治家だけが悪いというのではなく、国民も含めた政治のあり方について、私たち自身がどう考えるのか、どういう政治をめざしていくのかという視点を持たなければならない。

解散総選挙が何時になるのかは分からないが、勤労者・生活者の立場に立った政治の実現と連合の政策実現のために、私たちは歩みを止めてはならない。

2012.8.27